

桜蔭俳話会 五月句会 (第三五五回)

平成二十九年五月二十一日(日)

港の見える丘公園で吟行。

句会場は大佛次郎記念館会議室

- 2点 領事館趾の日だまり夏の蝶 秀一
- 2点 白き巨船見つめてをりぬサングラス 友子
- 2点 ばら園のベンチ置きざりの缶ひとつ 明美
- 2点 愛妻に薔薇を写して送りけり 眞壽
- 2点 夏霞ベイブリッジは額の中 かおる
- 2点 緑さす風の流るる墳墓かな 邦子
- 2点 子規展や薔薇の香りに導かれ 守
- 2点 画架ひとつ真夏の色を足しにけり 守
- 2点 井戸残す領事館跡落し文 友子
- 1点①横浜や渡来の薔薇咲き揃ひ 秀一
- 1点①物怖じをせぬ子の触るるばらの棘 明美
- 1点①夏草や静かに祈るマリア像 友子
- 1点①ベイブリッジの車ゆつくり夏の蝶 ヤエ子
- 1点①スケッチの色まだ載せぬ藪蚊かな 秀一
- 1点①若葉風和蘭陀文字の墓ありし ヤエ子
- 1点 薔薇園のかをり集めしベンチかな 秀一
- 1点 洋館の喫茶のサンド若葉かな 眞壽
- 1点 薔薇愛す名札なければなほ愛す 守
- 1点 子規展を出で薔薇の香にむせかへる 友子
- 1点 椽の花日蔭の椅子はふさがりぬ 友子
- 1点 背中より外人墓地や青葉風 守
- 1点 絵を描く足元を過ぐ青蜥蜴 ヤエ子

※

- 初夏の海練習船の影ひとつ 明美
- 子規展や芸亭桜葉となりぬ かおる
- 葉影揺るる母子の像や蟻の列 友子
- 船員のゐる海岸通りラムネ売り 明美
- ひんやりの愛の母子像カズコバラ かおる
- 薔薇の葉の光合成の切りもなし 明美
- 吟行や身に添う風も薔薇色に 邦子
- 林火碑の青葉の影や遠汽笛 秀一
- 吟行は帽子目深に丘薄暑 友子
- 開港の頃より丘の風薫る 友子
- 新樹光コーヒーゼリーゆらゆらと ヤエ子
- 薔薇かほる大佛次郎記念館 守

ゲーテ座の二階に伸びる薔薇の花 眞壽

少子化の波のひたひた薔薇紅し 守

小満や好きな靴穿き吟行へ ヤエ子

バラ園やビル建築の港町 かおる

登りきて日差し真夏の港町 守

強き陽を楠の若葉が和らげて 邦子

蒼天にあふれ人の数薔薇の数 守

鳥声の木漏れ日ゆらす夏帽子 秀一

夏の港タンカーの胴チャイナ文字 明美

薔薇見事天候不順とは申せ 邦子

新緑に行き交ふ人の話し声 眞壽

息切れのせぬ噴水や日に対す 秀一

海の香や汗の引くまで木のベンチ 守

シャクナゲと見較べて見るビルの群 眞壽

青嵐コクリコ坂の信号旗 秀一

香水のひと吹き今日も頑張らう 守

次々と花咲き散りて今や薔薇 邦子

大佛次郎記念館ばらの香りに包まるる 友子

薔薇の花人の評価も四と六 眞壽

柵に入り山椒薔薇と確めし ヤエ子

(不在投句 古野明美、松浦かおる)

「事務局からお知らせ」

○六月句会

六月二十五日(日)午後一時から、旭区民文化

センター(サンハート)

兼題は「西日」

○七月句会

七月二十三日(日)、午後一時から、旭区民文化

センター(サンハート)

○八月は、句会は休みです。

